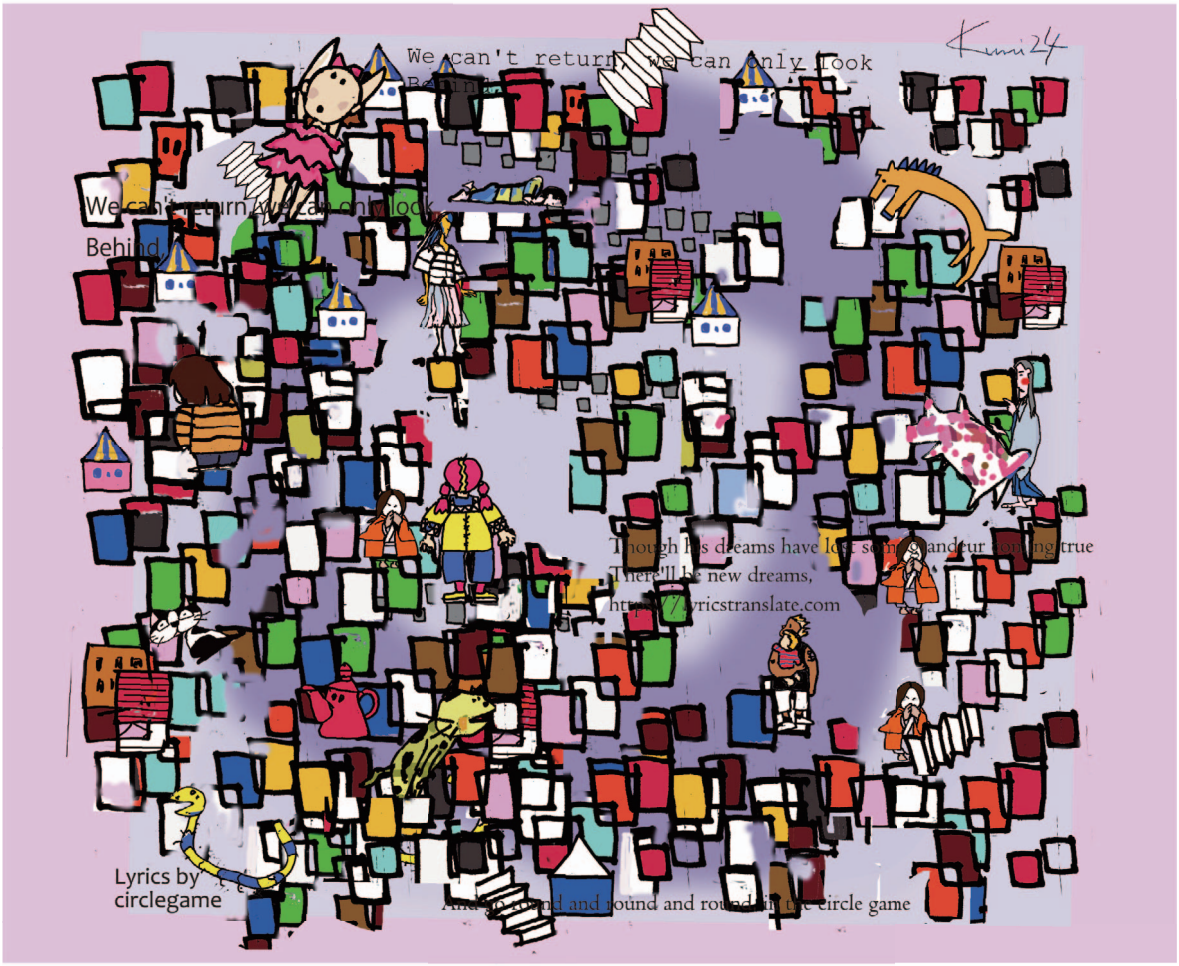
武蔵
MUSASHI

東京都立
武蔵高等学校
同窓会会報

59
2024.5.20



小関くに子 さん(21回G組)の作品
(旧姓 桂)

Topics

今年の総会日程

日時：2024年6月15日(土)

場所：都立武蔵高等学校「視聴覚室」
総会・アトラクション 13時～　校舎見学(希望者) 15時～
※懇親会、ホームカミングデイは中止いたします。

母校 東京都立武蔵高等学校・附属中学校の今！

各部活動代表生徒からの同窓会へのお礼の言葉
国際数学オリンピック金メダル、牧水・短歌甲子園 団体戦優勝、
武蔵高等学校・附属中学校「美術部」「生物部」より

お元気ですか 同窓生からのお便り

昨日・今日ー近頃の私
表紙によせて「小関くに子」さん

今年のアトラクションはこの方！

「光ファイバ通信の発展に寄与：導きor偶然or幸運or怒り」
NICT主席研究員・NTTイノベーティブデバイス フェロー
JAPAN PRAIZE 日本国際賞を受賞
萩本 和男(25回I組)

東京都立
武蔵高等学校同窓会
東京都立武蔵高等学校 同窓会事務所
〒180-0022 武蔵野市境1-3-4 エーブル武蔵境203
Tel & Fax 0422-27-7571

会長挨拶

「母校は、都立武蔵高校です」を合言葉に――今年も母校で総会を開催します



「躍進する武蔵」

同窓会会長 **土屋 正忠** 12回C組（1959年度卒）

卒業生が光通信で日本国際賞、現役生が数学オリンピックで金メダルや短歌大会で初出場優勝。さらに現役応援のための浄財寄付も。

創立84年の母校武蔵高校。29,000余名の卒業生が各界で活躍しています。さらに現役生が、あとに続けと張り切って活動しています。

昨年のビッグニュースは、萩本和男氏（昭和48年卒25回生）が光通信の分野でJAPAN PRAIZE日本国際賞を受賞したことです。JAPAN PRAIZEは民間の経済人が巨額な私財を提供し創出した賞で、文化勲章・恩賜賞と並んで、世界的研究成果を生み出した科学者に授与されます。

毎年１回、天皇・皇后両陛下ご臨席のもと、国会・内閣・司法の三権の長等が列席して表彰式が行われます。萩本さんは、光通信の分野で革新的技術を創造したことが対象となりました。

現役生も着々と成果を挙げています。数学オリンピックで3年生の北村隆之介さんが金メダルを受賞しました。また、「牧水・短歌甲子園」という短歌大会に出場した安田湖夏さん他2名の1年生が見事団体優勝となりました。心からお祝い申し上げます。

みなさんの活躍は武蔵高校の躍進を象徴していますが、それ以外にも大勢の卒業生や現役生が各々の分野で活躍していることを誇りに思います。とりわけ現役の諸君には人生のスタートに立っているわけですから、様々な可能性に挑戦して欲しいと思います。

さらに、現役生を支援したいという主旨で、同窓生の今西文子さんから多額の支援金が同窓会に寄せられました。学校とも十分協議をして、学校の一角にある「広場」にベンチを設置し、自由に集い語り合う場を作ることになりました。また、日よけのためのテント購入の費用にも充てることにいたしました。

今西さんは旧制高女の方ですが、少女時代の思い出を語ってくれると共に「私の歌が選ばれて、宮中の歌会始めで読み上げられたことに感激しました」と語っていました。人生の大ベテランの旧第十三高女の方々から18歳の青春真只中の新卒業生まで「母校は、都立武蔵高校です」を合言葉に、元気で助け合って、明日に向かって力強く歩みましょう。

なお、JAPAN PRAIZE受賞の萩本さんは6月15日の同窓会総会で、記念講演をお願いしました。



寄贈したテントとベンチ

同窓生共通一言インタビューです。お題はこちら♪

在校時代、わたしのマイブームはこれでした！

67年前、ラグビー同好会を作り旧男子校の立川高校と試合をしました。旧女子高から共学になって7年、先生が驚いたのが、印象に残っています。

昨年の同窓会総会/アトラクションの報告

2023年度（令和5年度）

昨年の同窓会総会は2023年6月17日（土）、26年ぶりに、母校（都立武蔵高等学校/中学校）で開催いたしました。

総会には卒業生100名余りが来場、2022年度の事業報告・決算報告、2023年度の事業計画・予算案が承認されました。また、役員改選の年でもありましたので新役員の選出承認も行われました。

総会後のアトラクションは元水産庁長官の長谷成人（28回C組）氏による講演「マグロやウナギを増やすには―いち武蔵生の水産行政遍歴―」が行われました。

今回は在校生にも応募参加していただき、30名余りが一緒に講演を拝聴、講演者は在校生にも焦点を当て、「21世紀を担う若い世代にメッセージ」を送っていただきました。

講演終了後、全員で校歌を合唱部員28名と一緒に斉唱し終了、校舎見学会を希望される卒業生はその場に残り、合唱部員の先導により校舎案内をしていただきました。今回は学校側から多大な協力を頂き誠に有難うございました。





今年の同窓会総会のお知らせ

2024年度（令和6年度）

2024年度 同窓会総会は母校で開催決定！

今年の同窓会総会は令和6年(2024)6月15日(土)、昨年に引き続き母校にて開催！

「懇親会/ホームカミングデイ」は今年も中止といたしますが、ホームカミングデイ該当の36回生及び56回生「お便りコーナー」は会報「武蔵59号」に掲載しています。

総会：23年度事業報告・決算報告、24年度事業計画・予算案の審議を行います。

日時 2024年6月15日(土)

13：00～総会（受付は12時）

14：00～アトラクション「萩本 和男 氏（25回I組）」

「光ファイバ通信の発展に寄与：導きor偶然or幸運or怒り」

15：00～校舎見学　（参加希望者）

現在、中高一貫となった母校を在校生先導で見学

会場 東京都立武蔵高等学校・視聴覚教室

東京都武蔵野市境4-13-28（最寄：武蔵境駅 徒歩5分）

※上履き・スリッパを持参ください。アトラクションは生徒の参加も可能です。

※懇親会・ホームカミングデーは中止いたします。

今年のアトラクション&テーマ

「光ファイバ通信の発展に寄与 導きor偶然or幸運or怒り」

世界的研究成果を生み出した科学者に授与される
JAPAN PRAIZE 日本国際賞を受賞



NICT主席研究員
NTTイノベーティブデバイス フェロー **萩本 和男**

25回 I組（1972年度卒）

大学の研究室以来、光ファイバ通信分野を中心に研究開発と導入支援をしてきました。半世紀近くにわたる中で、悪戦苦闘したことばかり思い出します。

最初は困難と思われたことが実現できるようになることは、一番の喜びですが、それを世の中に展開するには、当たり前の技術になり、誰にでも使えるようにならないと普及しません。

その過程では、多様に関わった人達と切磋琢磨するイバラの道で、誰とも満足感を共有できることを目指してやってきましたが道半ばです。それでも、関わった技術が広く普及したことには感慨があり、日本国際賞を受賞するに至って、携わった関係者と受賞を喜べたことはとてもうれしいことでした。何度となく来た技術の変化と経済的な波に振り回され、幾度となくタイトロープを渡る羽目になりました。懐古調になると思いますが、皆様の参考になれば幸いです。

［プロフィール 略歴］
1973年：都立武蔵高等学校卒業
1978年：東京工業大学工学部電気電子工学科卒業
1980年：同修士課程修了　同年日本電信電話公社入社、横須賀電気通信研究所
2000年：NTT未来ねっと研究所研究部長
2005年に同所長
2009年：NTT先端技術総合研究所所長
2013年NTTエレクトロニクス社長
2019年に同社フェロー
2021年：NICT主席研究員
2008年：IEEEフェロー・平成28年度紫綬褒章
2021年：IEEE Life Fellow・2023年日本国際賞

在校時代、わたしのマイブームはこれでした！
自転車通学に10段変速のサイクリング自転車を使っていました。

「Japan Prize」（日本国際賞）とは？

「世界の科学技術の発展に資するため、国際的に権威のある賞を設けたい」との政府の構想に民間からの寄付を基に設立され、実現したものです。この賞は、全世界の科学技術者を対象とし、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、もって人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められる人に与えられるものです。毎年、科学技術の動向を勘案して決められた2つの分野で受賞者が選定されます。

受賞者には、賞状、賞牌及び賞金が贈られます。授賞式には天皇皇后両陛下が毎回ご臨席、三権の長始め関係大臣と各界の代表のご出席を得、挙行されます。この顕彰事業を行っているのが公益財団法人国際科学技術財団です。

ようこそ同窓会へ!新卒業生（76回生）新幹事の皆さんです

2023年度卒（令和5年度卒）

76回生 新幹事

A組

B組

C組

母校 東京都立武蔵高等学校・附属中学校の今!

校長先生よりメッセージ

東京都立武蔵高等学校・附属中学校
統括校長 **堀江 敏彦**


堀江敏彦 校長 近影

今年度、武蔵高等学校及び附属中学校統括校長に着任した堀江敏彦です。管理職としてはこれまで、小平高校校長及び飛鳥高校校長、小石川中等教育学校副校長及び日比谷高校副校長を務め、主に国際理解教育や進学指導に特化した教育活動を推進しました。また、教育庁では指導主事として指導部高等学校教育指導課に配属されて、進学指導対策などを担当しました。さらに、兼務で青少年治安対策本部(現　都民安全推進本部)青少年担当課長として青少年健全育成等を担当しました。そして1年間、オーストラリアでの派遣研修に参加して、大学院で教育管理職について学びました。

これまでの経験を学校経営に活用することで、「武蔵高等学校」の伝統を引き継ぎながらも、教育活動を一層充実させ、さらなる発展のために全力を尽くしてまいります。同窓会の皆さま方には、引き続き、本校の教育活動を支えていただくために、大胆でかつきめ細やかな御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

各部活動代表生徒からの同窓会へのお礼の言葉

東京都立武蔵高等学校
生活指導部 部活動担当

この度は、同窓会の皆様より支援金をいただき、８つの部活動が無事に夏季合宿を終えることができましたことを、ご報告させていただきます。ご支援誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年合宿を行うことができず、どの部活も久しぶりの合宿となりました。まだ複数の部活動は合宿を断念いたしましたが、来年こそは予定していた全ての部活動が合宿を行うことができることを期待しております。

ご支援いただいた８つの部活動の代表生徒より、同窓会の皆様へ御礼の言葉を送らせていただきます。

山岳部

いつも現役生の部活動へのサポートをしてくださりありがとうございます。おかげさまで今年も山岳部としてOBコーチの支援を得ながら合宿を行うことができ、山を楽しむことができております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

サッカー部

僕たちの合宿の支援をしていただき、ありがとうございました。おかげさまで、個人としてもチームとしても一回り成長することができました。今回の合宿で学んだことを、今後の活動に活かしていきたいです。

男子硬式テニス部 女子硬式テニス部

いつもお世話になっております。私達テニス部に対して温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆様からの支援金を使い、７月に行われた合宿の練習用のボールの購入代金に充てさせていただきました。おかげさまで、夏季合宿ではより良い練習環境で技術を磨くことができました。本当にありがとうございます。これからも精進し、頑張って成長していきます。そして、同窓会やテニス部OB・OGの皆様のご支援に応えられるよう、今後も全力で部活動に取り組んで参ります。この度はどうもありがとうございました。

女子バスケットボール部

この度は、同窓会の皆様からのご支援により無事に夏季合宿を行うことができました。個人としてもチームとしてもたくさんの学びを得られた本当に濃密な４日間となりました。このような貴重な経験を実現していただき本当に感謝の思いばかりです。ありがとうございました。

ダンス部

今回の合宿では猛暑が予想されていたので扇風機と熱中症対策のための飲み物、食べ物を購入しました。ダンス部は８月に大会を控えており合宿でさらに上達することができました。ありがとうございました。

バドミントン部

ご支援誠にありがとうございました。合宿に必要な物や部員が楽しく、また安全に過ごすための物を購入させていただきました。バドミントン漬けの、非常に有意義な合宿となり全員が成長できました。今後も精進して参りますのでよろしくお願い致します。

生物部

高校生物部では４年ぶりの合宿を無事に開催でき、学校の周辺では見られない多くの植物や動物を楽しく観察できました。この貴重な体験を糧に今後も研究に励みます。合宿へのご支援、ありがとうございました。

昨年の生徒の活躍

2023年度
（令和5年度）

◆日本生物学オリンピック2022 銅賞獲得　◆日本生物学オリンピック2023 銀賞獲得
◆第23回日本情報オリンピック 予選優秀賞(1名)／予選敢闘賞(4名)獲得
◆第23回日本情報オリンピック 本選優秀賞(1名)、日本情報オリンピック第4回女性部門 本選敢闘賞(1名)獲得
※他、多数の活躍あり(都立武蔵高等学校附属中学校のHPより抜粋)

ホームカミングデー お便りコーナー

36回生のお便り(1983年度卒)

コロナ禍のため今年もホームカミングデイが開催できませんでした。
そのため、昨年に続き対象年次であった36回生(1983年度卒)と
56回生(2003年度卒)や先生から楽しいお便りを送って頂きました…!



2012年 36回生Fクラス会集合写真

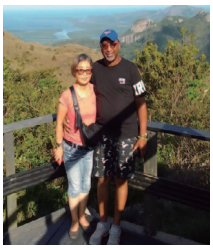
山元 伸朗 36回 A組

卒業後気づけば40年、20世紀から21世紀、元号は昭和～平成～令和と移り変わりあっという間でしたが、今日まで大過なく、そこそこ充実した日々を送っています。商社に入社したものの営業職とは無縁のまま、管理畑を歩み2004年から8年弱大阪勤務となりプライベートも含め全国47都道府県を飛び回りました。東日本大震災のあった2011年11月に東京に異動となり、東大楼や丸五酒店、そして母校に程近い所で現在生活しています。還暦までのカウントダウンも始まり、10年前のクラス会幹事松本さんに次回同窓会をそろそろと言われて焦っています。高校・大学・会社と40年来同窓の鎌田さん他幹事の方と今年辺りは作戦会議を開きたいと考えています。

松本 隼人 36回 A組

宇宙を舞台に活躍したいと衛星通信の会社(現スカパー)で技術者として12年間勤めた後、仲間と一攫千金を夢見て起業にチャレンジし夢破れ。現在は外資系IT企業で若手営業を育成する部門を担当し、同僚からは「校長先生」とからかわれています。振り返ってみると、仕事のスケールがだんだん小さくなり、私の身の丈に合ってきている気がします(笑)

10年前に開催したA組のクラス会は大いに盛り上がりました。酔うにつれ昔の面影が鮮明になってきて高校当時にタイムスリップしたような感じでした。コロナ騒ぎも過去のものとなり、還暦の頃にまた集まれるといいです。次回幹事のサッカー部山元くん、そろそろよろしく！


中米パナマにて、キューバ人の夫と

出口 順子 36回 C組

19年勤めた会社を退職し、2023年3月、キューバ人の夫と中米パナマに、移住してきました。還暦ちょい前の57歳の年、子供達も成人し、そろそろ子離れの時期。あっという間の人生、体力がまだあるうちに最後の挑戦です。幸い素晴らしい人達の出会いに恵まれ、1年以内で会社を立ち上げることができました。感謝でしかない!!

思いつくもの何でもやってみようと毎日がワクワクしています。そして時間と体力の許す限り、色んな国々を旅してみたいです。

仙北谷 仁策 36回 F組

「武蔵」を卒業した後は、教員養成大学に進みました。ワケあって人より長く大学生をしましたが、無事に卒業することができ、同時に八王子市の小学校の教員となりました。結婚を機に昭島市に異動し、教員として15年ほど経った頃、当時の管理職の勧めもあって、行政職(指導主事)となりました。その後は学校管理職と市教育委員会を行ったり来たりしました。初めて校長となったのは平成２６年、羽村市の小学校でした。

羽村市動物公園に隣接する小学校で、毎週火曜日と金曜日は「動物園登校」として、動物園の中を通って学校に登校する、日本でも珍しい小学校で、何度か取材を受けたことを今でも覚えています。現在は八王子市の小学校の校長をしています。(今年の1月には「大谷グローブ」も受け取りました！) これまでの経験と新しい学びを大切にして、退職まであともう少し頑張っていこうと思います。


36Cの洲川晶くんと一緒に、
学校近くの神社で行われた
どんど焼きに参加



沼野 雄司 36回 B組

「音楽学」という学問をご存じでしょうか。読んで字のごとく、音楽にかんする学問の総称で、歴史的、美学的、理論的・・・さまざまな側面から音楽を考えるという、実に楽しい分野です(ぜひ、拙著『音楽学への招待』(春秋社)を手に取ってみてください)。現在、桐朋学園大学というところで音楽学を教えていますが、考えてみれば、こんな道に進むことができたのも武蔵の自由な校風のおかげ。授業中にやっていたことといえば、和声課題を必死にこなすこと、当時ハマっていたショーペンハウアーを読むこと、そして学園祭のための戯曲を書くこと、といった具合で、見事に勉強はしませんでしたが、それでも得るものが沢山あった。

いま、大学で学生にお小言をいうたびに、しかし本当は学校というのはあの頃の武蔵くらい自由な方がいいんだよな、と思ったりもします。



藤田 真 36回 F組

就職した外資系コンサルティング会社では新入社員研修のフィリピンに始まり米国駐在。転職した物流業界新聞社では取材を名目にアジア、欧州出張をしまくり、ITバブルでコンサルティング業界に復帰。今は主にITコンサルティングや日本企業の海外進出支援のプロジェクトでインド人やアラブ人と仕事する毎日です。コロナ禍のリモートワークをきっかけに、移動が便利な中東ドバイに移住して2年になります。

海外がまだはるか彼方に思えた当時、英語の中本ゼミのアメリカの雑誌のリーディングやFENのディクテーション、それに山岳部の今泉顧問の中国旅行話は新鮮でした。海外に目を向けるきっかけを与えてくれた武蔵高校に感謝しています。



蔵元 千尋 (旧姓 服部) 36回 F組

2022年４月、C組のクラスメイトが闘病の末亡くなりました。その後、連絡のためグループLINEを作り、告別式に参列できなかった人が中心となって、初盆の墓参りをすることになりました。せっかくなので、同じ沿線にある「小平ふれあいパーク」に眠るいわおさん(C組担任の佐々木啓之先生)と、20年前に他界したクラスメイトの墓がある「小平霊園」もはしごでお墓参りすることに。

「線香用意するね」「献杯用の酒、準備します」「供花どこで買う？」など高校時代の行事の度に交わしたやり取りそのままにLINEが行き交いました。暑い夏の1日でしたが、いわおさんの墓前に、「みんなと一緒だよ！」と報告することがき、心地よく過ごすことができました。墓参りツアーは、2023年も催行されて、毎年恒例となりそうです。

56回生 及び 担任からのお便り(2003年度卒)



作：林桃子さん

56回 A組
林 桃子

今も絵(日本画)を描いています。

足立 理美 56回 H組

20年ぶりに同窓会幹事の仕事依頼があり、担任の先生方に連絡を取りました。3A担任の田中先生とは連絡が取れませんでしたが、その他、担任団の先生方とは連絡がつき、元気な様子でした。先生方の声を聞き、懐かしく、嬉しく思いました。メッセージを頂きましたので、武蔵時代を思い出して頂けたら幸いです。私ごとですが、武蔵でPTA役員をやるなど、第2の武蔵ライフを楽しんでおります。また、皆さんにお会い出来る日を楽しみにしております。

藤井 雅和 3-C 担任

東京都立武蔵高等学校、二つの地名を持つ。「東京」は百五十年。「武蔵」は令制以来一千数百年を閲する。この由緒ある名を負った学校に、歴史と伝統の重みを感じずにはいられないことも多かったのである。

臼井 麻美子 3-F 担任

卒業20周年おめでとうございます。お仕事に子育てにとお忙しいことと思います。何よりも健康に気をつけて益々充実した日々をお過ごしくださいね。こちらは昨年古希を迎えお陰さまで元気です。10年前から始めた登山を続けています。

原島 真悟 56回 F組

この20年、振り返ってみるとあっという間で、高校の仲間とワイワイやっていたことが思い出されます。自由で楽しい武蔵高校が大好きでした。合唱部のみんなと音楽を作り上げたり、数学、理科好きのみんなと点数を競ったり良い経験が今に生きてると思います。武蔵を経験し武蔵を愛する皆さんの幸せと活躍を願っています。

秋山 好則 3-B 担任

元気な新一年生が入学してきた。旧校舎からのスタートとなった。同時進行で新校舎の建築が始まる。激動の中の武蔵生活となった。担任していた1Eクラスの最後に記念に何かを残そうとなり、記念樹を植えることにした。園芸店から[シダレザクラ]を購入し、校地の南側に植えた。幹の太さ3cm位の小さな木が20数年を経過した現在太さ20cmほどに見事にたくましく成長している。春にはすばらしい花が咲く、それを見るたびに卒業後の生徒の活躍する姿を思い浮かべる。

秋山 小南 3-E 担任

絶えずながれる行く川の　たまの急流乗り越えて
つれづれ日ごと花添えて　尽きぬいのちに灯をともし
ときのながれにあれこれと　とおくはるかに過ぎし世と
四季の武蔵を思い出し　しあわせの身をただ感謝。

大澤 隆 3-G 担任

私が武蔵に赴任したのは40代に入った頃。気力も体力もあり授業でも新しいことに挑戦したり、部活でも生徒諸君に立ち混じって大いに楽しみました。その後上野高校、三田高校と定年まで勤めました。現在は週1回の市民オケの練習(チェロを弾いています)とやはり週1回ゴルフのラウンドでのんびり暮らしています。皆さんもこれから40代にさしかかり家庭は勿論、仕事や地域のリーダーとして活躍されることと思います。どうか身体に気をつけて今後の20年を更に有意義にお過ごしください。

木下 隆男 3-H 担任

武蔵高校第56回生の想い出と、その後の私――木下隆男(現在77歳)2000年4月1日から2007年3月31日まで7年間、英語科に在職していました。初年度は担任なし。石黒先生(女性)担任の2年F組の人達が新顔(ジー顔？)にもかかわらずとても温かく迎えたくれたのが印象的でした。旧制女子高の雰囲気が残っているような気がしました。担任になったのは翌年に入学した第56回生の3年間だけ。担任団は田中(英語)・菊地(数学・情報)・臼井(美術)・秋山小南(数学)・大沢(倫社)・藤井(国語)・秋山好則(生物)の諸氏でした。私が担任したクラス(1年D組、2・3年H組)は温泉が好きな人が多かったようで、箱根のユネッサ(水着姿の混浴！)や日の出町のつるつる温泉に遠足にいったのを覚えています。担任になった武蔵2年目はまだ旧校舎で、校庭に面した南校舎と北校舎が中庭を挟んで並列していて、2階に南北校舎を繋ぐ渡り廊下がありました。

放課後、二階の職員室から1Dの教室に行くときに、この渡り廊下を利用しましたが、そこはダンス部の練習場になっていて、ラジカセに合わせて踊りに熱中している女子の間をすりぬけるのがヒヤヒヤ、ドキドキでした。各クラスには週番がいて各授業が終わるごとに黒板を消したり、日誌を書くのが役目でしたが、2年、3年の担任の時、学期が終わるとその日誌をワープロ入力して『H組学級日誌』という冊子を作ってクラス全員に配っていました。今でも大事に保存してあります。読み返すとみんな、「こんなことあったっけ？」と忘れていることばかり。若かりし(皆さんも私も)頃の日常生活が目の前に蘇ってきます。(続く)



韓国留学中における下宿生活(2011年７月撮影)

★木下隆男先生からのメッセージの続きは、同窓会ホームページをご覧ください!

同期会・クラス会・部活OBOG会を行いました

楽しかった金沢でのクラス会

池田 礼次郎
(28回生 A組)

28回A組 クラス会
(1975年度卒)

久しぶりに開いた昨年6月のクラス会で、金沢に移住したT君から、「蟹の美味しい時期に金沢にみんなで来て！」と言う提案があり、「12月14～15日で行こう！」と即決してしまいました。

半信半疑で2ヶ月経過したところで、28AのLINEグループ(26人参加)で参加を呼び掛けたところ、配偶者3人を含めて15人が参加することになりました。

金沢ではT君の手配で、高級料亭の宴会、二次会はひがし茶屋街の一見さんお断りのお茶屋さん、翌日の朝食は、行列の出来る近江市場の回転寿司、その後市内観光と盛りだくさんな内容。楽しい1泊2日のクラス会となりました。



料亭旅館「金茶寮」とひがし茶屋街にて

3年遅れの“31F・還暦の会”

鈴木 光生
(31回生 F組)

31回F組 クラス会
(1978年度卒)

31回生F組のクラス会を昨年11月25日(土)に新宿のグレースバリ3階・アロナにて行いました。以前の同窓会の際に「還暦になったら集まろう」と言っていたのですがコロナ禍で実施できずにいました。しかし、昨年5月に5類へ移行となり、そろそろやってもいいのではないかということでクラスのみんなに聞いてみた所、「秋ころならいいんじゃない？」という意見が多数だったので、実施に至りました。

卒業からもう45年、久々のクラス会とあってどのくらい出席してもらえるか不安もありましたが当日は23名もの出席があり、また担任の宮地先生にも御臨席いただいて楽しい時を過ごすことができました。毎年は無理でも、また必ず開催したいと思います。


31回F組クラス会 グレースバリアロナにて

まだ還暦！だから今、会いに行こう！

手塚 裕樹
(34回生 G組)
石若 卓夫
(34回生 H組)

34回生 同期会
(1981年度卒)

34回生の還暦同窓会が2024年2月17日(土)午後、新宿の京王プラザホテルで開催され総勢164名が集いました。

準備はA～Iの9クラスの幹事27名が、遠方からの参加も含め、オンライン会議を併用しながら1年かけて企画を練りました。

1982年3月に武蔵高校を卒業して以来の再会や前回の50歳の同窓会(2014年1月)以来の再会、また日頃から集まりがあるクラスなどそれぞれでしたが、約3時間の楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

会場の一角に設けられた「これまでの私たち」コーナーでは卒業時の写真や10年前の同窓会写真が飾られ、「まだ還暦、これからの私たち」コーナーではこれからの私たちに向けて思い思いのメッセージが貼り付けられました。1年次及び2,3年次の写真撮影の後、最後は全員で校歌を斉唱し大盛況のうちにクロージングとなりました。またいつか再会できることを心から願っています。


34回生 還暦同窓会の様子 京王プラザホテルにて(164名が参加)

44回生の同期会に約100名が集まりました！

植竹 愛
(旧姓 高須／44回生 G組)

44回生 同期会
(1991年度卒)

2023年11月11日(土)、吉祥寺エクセルホテル東急にて44回生の同期会を開催しました。9クラス全体での企画は20年ぶりとなります。

2021年12月よりオンラインの同期会を計4回開催し、少しずつ輪を広げていきました。吉澤先生、真部先生、田中先生、溝口先生にご参加いただき、約100名の懐かしい顔ぶれが集まりました。

アラフィフの私たちですが、心は高校生に戻ってあっという間の2時間をともに過ごしました。

コロナ禍のため1年延期となり、開催までに2年かかりましたが、皆で協力し、実現した同期会となりました。


44回生 同期会 吉祥寺エクセルホテル東急にて(約100名が参加)

「お元気ですか」同窓生からのお便り

心の支え


第二子との散歩

坪井 文香（旧姓 後藤）

64回 D組（2011年度卒）

この度は、寄稿のお誘いをありがとうございます。

武蔵時代の友人とは、年明けにも会ったばかり。卒業から13年が経ちますが、変わらず大切な心の支えです。

高校時代、様々な授業を受ける中で、漠然と政治に関心を持ちました。大学では国際政治について学び、日本の国際競争力強化には地域の産業である農業からという思いで、農林水産省に入省しました。

これまでに４ポストを経験しましたが、最も長く在籍したのはバイオマスの担当部署です。G20農業大臣会合に関わる業務にも携わったほか、主としては地域のバイオマス資源（木材や家畜排泄物等）のエネルギー利用推進を担当してきました。その後、脱プラの社会機運が高まり、バイオマスプラの普及に向けた仕事にも取り組みました。バイオマス原料を輸入に頼る製品も多く、国内資源に置き換えていく難しさ等に息詰まりそうな日々でしたが、他省に勤める部活の同期と仕事の近況を語り合うと前向きになることができました。

プライベートでは、一男一女の母となりました。子ども二人を育てるのは、喜びが大きい一方、様々な苦労もあり、日々が目まぐるしく過ぎていきます。ところで、大学時代、同級生と共に武蔵へ顔を出したことがありました。その際、再会した恩師から「武蔵は、勉強に加え、部活も行事もやりきるところがいいんだ」と言われたことが記憶に残っています。当時は、勉強が何より大事では？と思ったものの、親の立場になった今、子どもには、勉強もそれ以外もたくさん経験して欲しいと、当時の恩師のメッセージが理解できるようになりました。このように、日々のさりげない場面で、武蔵での出来事を思い出します。

武蔵での三年間は、私にとってとても大切な時間であり、心の支えとなる親友達との出会いもありました。皆さんにとってもそんなかけがえのない記憶、存在であれば幸いです。

在校時代、わたしのマイブーム
部活帰りのお菓子の買い食い

武蔵リスペクト



2021年息子も生まれました

元・お笑い芸人 現在・服飾クリエイター 中村 涼子

57回 F組（2004年度卒）

私は小学生の頃からお笑い芸人になるのが夢だった。武蔵に入学してすぐ、芸人研究同好会を作った。コンビで文化祭でネタを披露したり、クラスの友達たちに台本を渡して、一緒に合同コントに参加してもらったりした。

高校卒業後、大学進学するも「高学歴の芸人という肩書きって得しそうだよな」という下心しかない進学動機だったため、大学2年でお笑い養成所に入学すると、徐々に大学からはフェードアウトしてしまった。

20歳でお笑い芸人一本！となった私は、２組ほどのコンビを経て24歳からピン芸人として活動する。全国放送のテレビに初めて出られたのは芸歴7年目、26歳の時だった。『細かすぎて伝わらないモノマネ選手権』。漫画『ガラスの仮面』の細かいモノマネをして、穴に落下した。ここから少しずつテレビやラジオの出演も増えていった。

そして芸歴11年目となった、2017年、初めてお笑い芸人を辞めようかなと思った。

趣味だったはずの少女漫画をもっと知る時間が欲しくなった。その年の暮れ、女芸人『threW』という賞レースで、芸人人生初めて、決勝のステージに上がれた。

少女漫画の主人公のようなコントをした。予選ステージ敗退。その数ヶ月後に芸人の仕事をほぼ辞め、少女漫画家の先生の元でアシスタントを始めた。社会人を経験していない私にとっての、初めての学生とお笑い以外の場所。すごく新鮮で楽しかった。絵を描く技術や、漫画の制作段階を見せてもらって、そこから、ものを作る事自体に心が奪われ、2018年から自分の作ったもので個展を開催し始める。そこで初めて洋服作りに興味が湧き、独学で洋裁を覚えて作り始め、個展に洋服も並ぶようになった。現在の主な職業は、洋服作りや、キャラクターのデザイン、個展開催、最近は趣味で数秘術という占術にもハマっている。そんな私を現在教師となった武蔵の同級生たちは「こどもたちの職業案内に」と自分が働いている学校の卒業シーズンに呼んで、私の職業歴を子供達に語らせてくれる。武蔵の同級生たちは私と逆だ。

至って、普通、みたいな顔して、中身が変だ。そんな武蔵のみんなを私は心から尊敬している。

在校時代、わたしのマイブーム
片道40分の自転車通学

今日はどんな出会いがあるか?



二月の庭で、春をまちつつ

繪 庭 茶ーカフェ 海の塔。 原田 泉

19回 E組
(1966年度卒)

75才になった私は今、妻と八王子城跡の麓で小さなガーデンカフェをやっています。カフェの名前は、繪　庭　茶　海の塔。

"猪やサルまで出没する山里で、なんで海の塔なの？"と多くのお客様から質問されます。それは、父が65才で運転免許を取って、母と移住したスペインの小さな町の名前から店名をもらったからです。

絵描きだった父は、私が大学を終えると待ちかねたように『ここからは俺の時間だ』と移住しました。以来25年。スペイン各地を転々として最後はマラガの近く地中海のほとりの小さな町にアトリエを構えました。その町の名が『torre del mar』日本語にすると『海の塔』。カフェの名に頂きました。

父はここで毎日スケッチに出かけたり、アトリエにこもったり、本当に残された時間、たっぷり絵を描きました。そして『絵描きは絵を見てもらって初めてコミュニケーションが始まるのだ』と言っていました。

絵は不思議です。作者は死んでも絵は語り続けます。静かに時間をかけて眺めると、何か語りかけてくるように思えます。父の絵を掛けてくれる美術館はありませんから、私達はむしろ父の絵を見ていただくためにカフェを始めたとも言えます。

庭は不思議です。花や草に囲まれて、風に吹かれているとなぜか自然と素直になって、自分の素を出せるような気がします。かつて山帰りに寄られた言語学の老教授に『この庭は南仏にある僕の友人ファーブル先生の庭に似ているぞ！』と言われて、なんだか大変嬉しかったのですが、私は密かに、テーブルをあちこちに配置したこの庭は、自由で決めつけない包容力の大きな武蔵高校のような庭だと思っています。そして、この庭で今日はどんな出会いがあるかとてもワクワクしています。営業日は、金"土"日と祭日ですが、その他の日は、俳句の会や、朗読と落語の会、コロナ前にはプロのオペラ歌手(バリトン)に庭で歌っていただいたこともあります。武蔵時代の担任だった小森長生先生には、今でも年に数回 "宇宙の話.楽しい話" と題して懐かしい授業をしていただいています。

在校時代、わたしのマイブーム

ベンチャーズです。我がクラスにもバンドを組んで"テケテケテケと"テレビ出演した人たちがいました。

武蔵高校同窓会"海外支部"より

自由な武蔵の校風



車で通勤中

グーグルM&Aマネージャー ハーソノ(古井)あゆみ

44回 I組
(1991年度卒)

早稲田大学卒業後、希望していた営業職ではなく、システム開発部門に配属されたことが、私とテクノロジー業界の出会いとなりました。10代の頃に読んだ本がきっかけでMBA取得を決意し、学費と生活費を捻出するために稼ぎながらコロンビア大学でMBA、ハーバード大学で修士号を取得しました。その後、ビジネススクールで得た知識と人脈を、MBA取得者が比較的少ない自国で活かしたいと考え、日本に帰国しました。東京のオフィスで残業をしていたある日、「テクノロジー業界で働くなら、シリコンバレーで自分を試そう！」と思い立ち、思い切ってグーグル本社への仕事に直接応募しました。その結果、内定を頂き、2014年にカリフォルニアへ移住することになりました。

現在は、アメリカ・カリフォルニア州にあるグーグル本社でM&A業務に従事する傍ら、歯科医の夫と２件の歯科医院を経営し、日本企業の社外取締役としても仕事をしています。M&A業務を通じて世界中の起業家や発明と関わる日々は非常に刺激的で、買収企業の統合戦略を練る仕事は創造性が求められるため、ルールにはめられるのが苦手な私にとても向いていると思います。

２児の子供の母親業と複数のキャリアの両立は容易とは言えませんが、ハウスキーパーやベビーシッターの力を借りて家事の負担を最小限にし、仕事後は早めにオフィスを出て、家族との時間を確保するようにしています。

シリコンバレーには、世界中から仕事を求めて移住する人々が集い、人種の多様性と実力主義に基づいたフェアな文化があると思います。他人と異なる意見や視点こそが尊重され、出社できる時間が限られていても成果さえ出せば問題ないので、仕事の成果を出す事に集中する事ができます。この環境は、自分の興味のある事に集中できた、自由な武蔵の校風と似ていると思います。

卒業後も、様々な分野で活躍される武蔵の卒業生との交流は、私にとって喜びであり大きな励みとなっています。

在校時代、わたしのマイブーム

東村山市の自宅から武蔵高校まで往復１時間以上かけて自転車で通学していました。帰宅途中、武蔵高校の友人たちと自転車に乗りながら話すのがとても楽しかったのを覚えています。

正解は１つではない

末永 幸歩
58回 D組
(2005年度卒)

美術教育に携わって、今年で13年になります。かつては公立の中学校教諭でしたが、４年前に独立し、執筆や講演など多方面で教育活動に携わるようになりました。

私はアートを「植物」に喩えています。アートにおける作品は、地表に咲いた「花」のようなもの。美術の授業で「上手に絵を描く」「器用にものをつくる」というのは全て、花に関することです。地面の下には、「タネ」と「根」があります。根のない切り花がすぐに萎れてしまうように、植物にとって最も大切なのは地下の部分です。

それは、心にふと灯る「興味」に目を向け、そこから自分なりの「探究」をし続けること。そう考えると、アートは様々な学びの基盤であり、自分らしく生きるために欠かせないものだと思うのです。



授業の様子

教諭時代は日々の授業に追われ、美術教育について深く考える余裕はありませんでした。「新しいチャレンジがしたい」と、教諭の職を離れ修士課程で学び直したことが、今の考えに至ったきっかけです。学生の立場に戻り仲間と美術について自由に語ったり、サークル的に教育活動を行ったりした経験は、「中学校の先生」として凝り固まっていた私の頭を柔らかくしてくれました。

暫くして、時間講師として中学校でまた働き始めたとき、授業や生徒に対する私の向き合い方は変わっていました。

たとえば授業中に立ち歩く生徒がいたとき、「授業だから座ろう」ではなく「授業って座らなくてもできるよなあ」と考え直してみたり。美術についても１つ１つ立ち止まって考えるようになり、徐々に「花」よりも「タネ」や「根」に重点を置く授業が形になりました。

生徒たちにも変化がありました。「不器用でセンス無いです」といっていた生徒が、上手い下手関係なしに、自分なりの考えを披露する姿。他の人の少し変わった意見にも面白さを見出す姿……。美術室に、自由の風が吹きはじめたようでした。

こうして実践してきた授業をもとに、『13歳からのアート思考』という書籍を執筆しました。現在では、20万人を超える多くの方々に手にとっていただき、感謝に尽きません。



13歳からのアート思考

私の生活はの出版本と同時にガラっと変わりました。独立して多岐に渡る教育活動を行うようになったのです。また、同じ時期に初めての子どもを出産しました。

一気に広がりつつある仕事にもっと挑戦してみたい。他方、子育てには人一倍ゆっくりと向き合いたい──「子どもとの時間を大事にしながら、フリーランスで働いています」というと優雅な感じがしますが、実際の生活は綱渡りのようでした。



3歳の娘と

子どもを公園の芝生に寝転がせながら、毎日立て続く講演会の練習をしたり。一日がかりのワークショップの後新幹線に飛び乗り、子どもの待つ家に走って帰ったり。緊張感ある仕事の連続と夜中の育児が重なって、眠れない日々が続いたり……。

「どっちつかずなのではないか」と言われてしまえばそれまでですが、それでも「これで良かった」と感じる瞬間が多々あります。子どもの目線で見る世界は、見るたびに新しい色味を帯びています。それは、アートによって「ものの見方」が増えていく感覚にとても近いものがあります。

子どもと過ごす時間は、私の内なる世界を豊かに耕すとともに、沢山の新しい興味のタネを撒いてくれているように思うのです。

正解は１つではない── アートや子どもから、私はいつもそのことを学んでいます。

アートの考え方が波及することで、一人ひとりが「自分なりの答え」を大切にすることができ、同時に、自分とは異なる「異質な存在」を受け入れ合うことができる、そんな社会が実現することを願っています。

在校時代、わたしのマイブーム
吉祥寺での古着屋巡り

表紙によせて

決めごとのない世界へ

作者紹介 **小関 くに子さん**（旧姓 桂）

21回 G組（1968年度卒）

大学の漫画研究会に入りたくて進学し、入ったものの漫画家になる根性と才能に見切りをつけて、会社員になりました。それでも、まわりまわって、イラストレーターという仕事につきました。人生いつまでもわかりません。今は水彩連盟という全国規模の団体でも、制作と運営に追われています。

表紙の絵は、一部ペンで描き起こしたものをパソコンに取り込み、レイヤー、レイヤー、またレイヤーで、制作したものです。デジタルアートというにはほど遠いですが、今、目の前にある未知なる技術を習得し、もっともっと楽しんでいきたいものです。

毎年4月に国立新美術館で水彩に特化した公募団体、水彩連盟展に出品しています（一応幹部です）。2024年はS100号を出品しました。水彩淡彩だけではなく、水溶性の画材を使えばなんでもオーケーというわけで私はアクリル絵具と、コラージュを使って制作をしています。あるものをあるままに描く、思いをキャンバスにぶつける、それぞれの作風が、いわゆる水彩画の趣を飛び越えた、こうあらねばならないということはまったくない、面白い展覧会になっています。

もし、機会があればご覧になってください。右上の写真が私の作品。昨年、国立新美術館と愛知美術館ギャラリーで展示されました。



2022年6月個展
東京銀座・奥野ビル
純画廊



2023年4月第83回水彩連盟展 本展 国立新美術館
写真の会場は巡回展 愛知県美術館ギャラリー
Entrance 100号（右の作品）





旅の途中 水彩とコラージュ 30×30cm



［略歴］1950年 京都生まれ 立教大学文学部卒。商事会社に勤務しながら雑誌にイラスト掲載。その後、雑誌、書籍編集、イラストレーターとしてフリーランスとなる。たまたま公募展に出したことで、大きな絵の制作に魅力を感じ、現在水彩連盟・運営委員

在校時代、わたしのマイブームはこれでした！

個性的で一筋縄ではいかないクラスメートたちでした。それぞれを眺めるのが楽しく興味深かった♡

2024年3月末現在
卒業同窓生総数26,687名
内不明・物故等 11,201名

同窓会公式ページのご案内



同窓会公式ページでは、同窓会活動の活性化を推進するためホームページを運営しています。

本会報に載せ切れなかった、多くの卒業生や教職員からの「お便り」や「卒業後の活躍」、「クラス会・同期会・OBOG会」の告知や開催レポートを盛り沢山に掲載をしています。

「みんなどうしているかな?」と思う日に、仲間をつなぎ・世代間をつなぐポータルサイトになることを願って運営をしています。同期・同級の懐かしい顔ぶれもいるのではないでしょうか。オンライン上での会員情報の変更や、ホームページでのクラス会・同期会の開催告知なども行えますので、どうぞご活用ください。

https://musashi-dosokai.com/

都立武蔵 同窓会 検索